

仕組みにしていくということ

社会福祉学部社会福祉学科2年 豊田 碧里

活動先：NPO法人 はっぴいわん大府

クラス：松下 典子 先生

1. はじめに

私が今回活動先にはっぴいわん大府を希望した理由は、地域に馴染んだ場所だと思ったからである。正直NPOの活動を行うと知った時NPOが何を行っているのかわからなかったのが不安だった。どうしても活動や実習と聞くと施設のような場所というのが頭に浮かんでしまったので、そういった場所ではなく、家のようなアットホームで自分が楽しむことができそうな場所を選ぼうと思った。写真での見た目から選択した活動先だったが、活動を通して様々なことを学ぶことができた。

2. 自分の成長と気づき

活動に行く前は、いくらNPOで地域に密着した団体であっても、施設のように決められた日に決められたメンバーが集められ、決められたことをするのだと思っていた。しかし、実際に活動を行ってみると、曜日によって開かれる教室は決まっているものの、利用者はそれ以外に食事をしたり、ただしゃべりに来たりと本当に「いつ来てもいい、いつ帰ってもいい、もう一つの家」のように自由にはっぴいわん大府に訪れていた。その中で私たちは、主に食事作りの手伝いを行っていたのだが、その食事も季節の野菜をスタッフの皆さんが今まで家庭で作ってきた料理のレシピを持ち寄り、一つの定食にしていくように感じられた。食事作りを行う中でスタッフさんとコミュニケーションをとり、この活動の良さや意義などを教えていただいた。

はっぴいわんでの活動で一番私が印象に残ったのが開かれている教室の豊富さである。絵手紙や編み物、ボールペン画など様々な場所で週に1・2回行われている。先生として教えているひとは利用者と一緒に食事を作っていたスタッフなどその人の得意を生かした教室であるというのが印象的だった。その中でボールペン画を体験させていただき、これから高齢化が進む中で今の福祉は何かが必要なのか、このように数人が集まって共に一つの物を作り上げていく、喜びを共有できるような環境、居場所づくりが必要なのではないかと感じた。

はっぴいわん大府での活動を通して、少し時間が空いたからここへ来る、そこにいる利用者としゃべりにくる、一緒に食事をする、自分が作った作品を誰かにみてもらうためにそこに行く。そんな当たり前の毎日の時間、気が付いたらそこに向かっていたというのが一つの生きがいづくりではないかと実感した。

私自身も実習を通して、料理のコツを教えてもらったり、スタッフの方とコミュニケーションをとる中でだんだんと余裕ができて周りの様子が見えてきて、気になる点や良い点などを自分なりに見つけることができた。6日間という短い期間での活動だったので、深く「はっぴいわん大府」について知ることはできなかったが、自分が活動前に思っていたNPOに対する見方と違った見方で活動を終えることができたのでよかったと思う。

3. 活動を通して見えてきた地域活動や社会活動

6日間の活動を行う中で担当者の方が何回もいっていたのが「はっぴいわん大府」のような居場所を地域の仕組みにしていくということである。利用者がギリギリまで介護保険を使わず、楽しむことができる、そんな居場所が必要とのことである。また、はっぴいわん大府はこれから自分たちの場所だけでなく地域にある他のサロンに食事配達を行っていくということで、同じ活動を行っている地域のサロンと深い交流があることがわかった。しかし、活動を行っていく上で問題もあるようであった。それは地域性である。ある地域では住民がNPOの活動に積極的に参加し、スタッフとして入ることがあるが、もう一方の地域では住民があまり積極的に参加しようとはせず、スタッフの人数が足りないため隣の地域から参加してもらっているということであった。住民のための居場所づくり、生きがいづくりを行おうとしても、その地域の特徴を考え地域に合った活動を行わなくてはいけないのだと思った。実際の活動を行ってみて、誰とでも仲良くなれる。他人同士が家族になれる場所だと思ったので、サロン以外にも地域の行事や子どもたちとのふれあいなどを通して、地域住民の間で口コミのように広がっていけばいいと思った。

他にもはっぴいわん大府の活動ではないのだが、活動最終日に担当者さんの息子さん宅に訪問させていただいた。息子さんは現在アーティストとして活動しているそうで東日本大震災の現場に落ちていたものでつくった作品などを見せていただいた。はっぴいわん大府に飾られている作品の一部は息子さんが作ったもののように、家族も活動に協力することもある。はっぴいわん大府には多くの作品が飾られており、目で見て楽しむこともできる。先生として教えてくれる人がスタッフとしてその場にいるため直接話を聞くこともできる。ただ食事にくるだけでなくそういった作品づくりを行ったり、見に来たりするだけでも地域にNPOの存在を呼び掛けていくことができるのではないかと思った。

4. おわりに

はっぴいわん大府で6日間活動してみて、NPOの活動が地域住民にとっていかに大切な場所となっているのか、今後どのように展開していくべきなのかを知ることができた。活動中見回りに来た松下先生と担当者さんの会話を聞く中で、NPOの活動が前と比べてどのように変化していったのかなど立ち上げ当初のことを知っている人の話を聞くことで目では見えないことを知ることができた。担当者さんが言っていた地域の仕組みにしていくためには今後どのように呼びかけていったらいいのか、住民がもっと参加しやすい居場所づくりを行うためにどうすればいいのか考える必要があると思った。

見た目と自分の勝手な想像で選んでしまった今回の活動であったが、6日間の活動を行い、その後振り返りを行う中で、NPOの大切さや地域における重要な役割などがわかった気がする。また、他のグループやゼミの活動報告を聞くことで制度では行うことのできないサービスをNPOが行っているということを知ったし、他の報告を聞くことではっぴいわん大府にしかない特徴なども見えてきた。今後はこの活動で学んだことを生かしNPOの活動がどのように地域の仕組みとなっていくのかについて考えたい。